

現代にこそ大事な学びとは —教育心理学の観点から—

学校では、時代に合わせた学び方があります。例えば、コロナ禍以降はICT教育が普及し、以前とは学びの道具や学びの方法が大きく変わりました。ですが、道具や方法が変わったとしても、学校で学ぶのは“人”であることは変わりません。“学ぶ人”の“心”次第で、その人の学びは変わってくるでしょう。では、学びにとって大事な心の持ち方は、時代とともに変わるものなのでしょうか。それとも、変わらないものなのでしょうか。3名の専門家とともに考えていきたいと思えます。

2024年 9月28日 (土)
13:00-16:00
オンライン開催(Zoom)

事前登録制
先着順
※申込締切
9月24日

参加費無料
定員1000名
※入退室自由

参加方法

Zoom Video Conferencelにアクセスすることでご参加いただけます。
録画・録音はご遠慮ください。
※インターネットに接続しているパソコン、タブレット、スマートフォンが必要です。
通信料は参加者負担となります。

申込方法

日本心理学会HPにてご案内しております
下記申込サイトより、該当の「イベント名」と「開催日」をご確認の上、事前に必要事項のご登録をお願いします。ご登録された方には確認メールが届きますので、当日は確認メールの「ウェビナーに参加」よりご参加ください。

申し込みサイト:
https://psych.or.jp/authorization/nintei_nokaievent/



主催/公益社団法人日本心理学会 認定心理士の会

問い合わせ先 公益社団法人日本心理学会事務局

電子メール jpa-ninnokai-event@psy.or.jp

プログラム

開場: 12:50 開会挨拶: 13:00-13:05

13:05-13:50

生田 淳一 先生(福岡教育大学)

「自ら問うことの価値」

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の実現に向けて、学校での学びはアップデートしている。その中で「自ら学ぶ力」を育むことの大切さについて考えさせられることも多い。ここでは、学びの変化の中での学習者の主体的な学びを支える「自ら問うこと(自己発問)」の価値について再考したい。本発表では、特に学校の授業場面に焦点をあて、自ら問うことを中心にした学びの可能性と限界について検討する。その上で、問う力の育成について提案したい。

14:00-14:45

野上 俊一 先生(中村学園大学)

「知りたい気持ち」

テストの問題の正解が知りたい、明日の天気を知りたい、話の続きを知りたい、友だちの気持ちを知りたい、など、「知りたい」気持ちは学校場面や日常生活場面で頻繁に生じています。この「知りたい」気持ちについての心理学研究を概観し、特に「知らないから知りたい」と「知っているからもっと知りたい」の2つのプロセスの共通する部分と異なる部分に注目し、主体的な学びについて考えたいと思えます。

14:55-15:40

尾之上 高哉 先生(宮崎大学)

「学習内容の定着を図るために」

学習内容の定着は、教育で目指される目標の1つである。定着を促進する方法の1つに、「練習して」定着させる、という方法がある。これまでの研究では、その練習の仕方を、ブロック練習と交互練習という観点から捉える枠組みがある。両者の違いは、一見、取るに足らないようにも見えるが、これまでの研究を見る限り、練習の効果に大きな違いが生じる可能性もある。そこで本発表では、これまでの研究をもとに、まずブロック練習と交互練習の違いを整理し、その上で、それぞれの利点と弱点、及び弱点への向き合い方を整理する。

総合議論 15:40-15:55

閉会挨拶 15:55-16:00

企画・司会/三上聡美(中村学園大学)